

# 大会に関する規定

## 1 愛媛県高等学校野球連盟大会運営規定

### 1 本連盟の主催する大会

愛媛県高等学校野球連盟が主催する大会は下記のとおりである。

- (1) 春季四国地区高等学校野球愛媛県大会（以下春季大会という。）  
但し、東予・中予・南予で各地区予選を行い、地区代表 16 校によって行う。
- (2) 全国高等学校野球選手権愛媛大会（以下夏季大会という。）
- (3) 秋季四国地区高等学校野球愛媛県大会（以下秋季大会という。）  
但し、東予・中予・南予で各地区予選を行い、地区代表 16 校によって行う。
- (4) 高等学校野球新人大会（東予・中予・南予各地区別）  
夏季大会終了後夏季休業中に新人大会を行う。
- (5) 高等学校野球一年生大会（東予・中予・南予各地区別）

### 2 他県高野連との共催により主管運営する大会

- (1) 春季四国地区高等学校野球大会  
四国 4 県高野連の共催により持ち回り式で主管運営する。
- (2) 明治神宮野球大会  
秋季四国地区高等学校野球大会で優勝したチームが出場する。
- (3) 秋季四国地区高等学校野球大会  
四国 4 県高野連の共催により持ち回り式で主管運営する。

(注) 本大会出場校は選抜高等学校野球大会出場校推薦の参考資料とされるので、次の推薦基準を参考とすること。

#### ○ 選抜高等学校野球大会出場校推薦基準

- (ア) 日本高野連の野球大会参加者資格規定に適合したもの
- (イ) 学生野球憲章の精神に違反しないもの
- (ウ) 校風・品位・技術とも愛媛県高校野球代表校としてふさわしい学校
- (エ) 技能については全国高等学校野球選手権大会終了後より 11 月 30 日までの試合の成績、実力などを勘案するが、勝敗のみにこだわらずその試合内容などを参考とする。
- (オ) 選抜高等学校野球大会はあくまで予選を持たないことを特色とする。したがって、秋の地区大会は参考資料であって予選ではない。

### 3 会 場

主会場は原則として坊っちゃんスタジアムとする。但し、参加チーム数により、他球場を併用することがある。

### 4 選手の登録

各種大会参加時に行う選手の登録は、大会本部より指定された期日内に完了すること。

なお、登録選手の変更は指定された期日までに大会本部に届け出なければならない。(様式参照) それ以後の変更は認めない。但し、大会中不慮の事故があった場合は、審議の上認めることがある。

(例えば食中毒などの重大事故)

### 5 試合前の宿所または居所の連絡

大会開催地に到着したチームは当日試合の有無にかかわらず、直ちに宿所または居所を大会本部に連絡すること。

### 6 試合当日の留意事項

出場各校は責任教師が引率し、すべての行動に責任をとる。

(ア) 試合球場への到着時刻及びオーダー用紙の提出

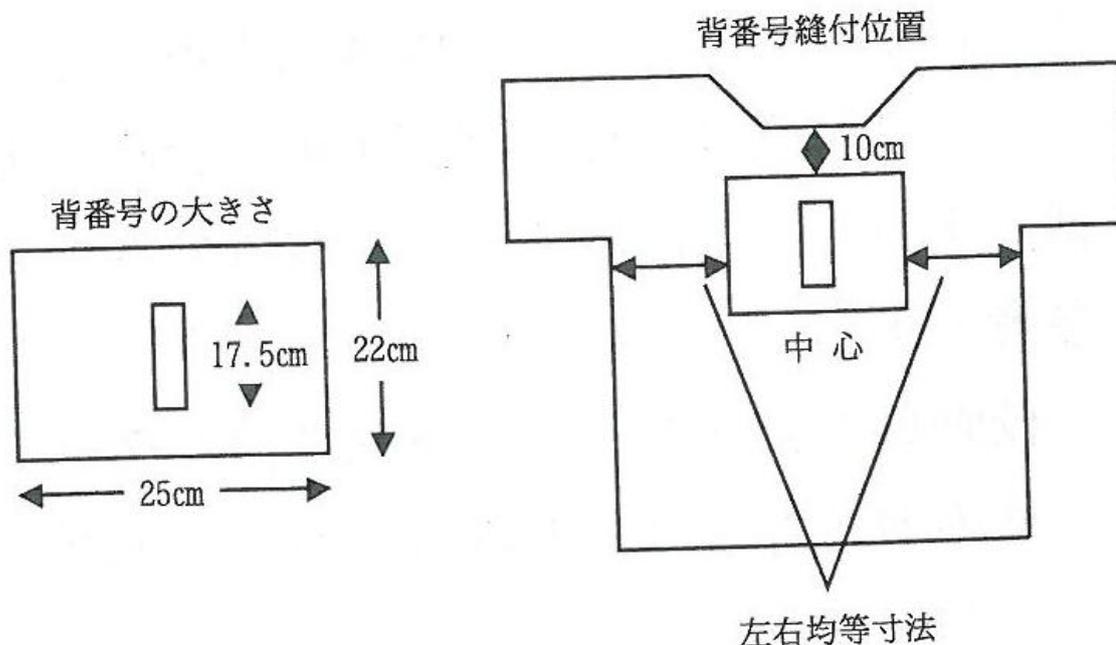
各チームは試合開始 1 時間前までに試合会場に到着し、直ちにオーダー用紙 5 通を大会本部に提出すること

(イ) ベンチ入りできる人数

ベンチ内に入ることができる者は責任教師1名、監督1名、選手20名、スコアラー1名、計23名以内とする。

(ウ) 同一チームのユニフォームと背番号

選手・監督・補助ノッカーのユニフォームは同色同形・同意匠のものを着用する。なお、選手の背番号は登録番号と同じものとする。(白布地に黒色のアラビア数字とする。)



(エ) フィルディンダ

フィルディングは7分間以内とする。この際補助ノッカーは1名とし選手と同意匠のユニフォーム・黒靴とする。補助選手は5名以内としユニフォームを着用する。ノック補助員はヘルメットの着用を義務づける。

(オ) 試合前後のあいさつ

試合前後のあいさつは選手以外の者もベンチの前に整列して選手と同時に行う。

(カ) 試合中の留意事項

試合にあたっては大会旗の意味する3F精神 (Fairplay, Friendship, Fighting Spirit) に徹して、特に次の諸点に留意する。

ア フェアプレイ精神の高揚を図る。

イ 規則正しくスピーディーな試合を展開する。

ウ 危害防止に努める。

エ 健康管理に配慮する。

① 健康診断の結見異常がない者を参加させる。

② 主催者は大会中の負傷に対し、応急手当をするほかは一切その責任を負わない。

③ 校医の健康証明書によって健康を保証された選手でも、大会に参加してから疾病・負傷・その他の健康上の理由で主催者が不相当と認めたときは、当該校と協議のうえ出場を禁止することがある。

また、前記のような選手が多く出てチームの編成ができない場合、その主催者が不相当と認めた場合は、その試合を停止して相手チームに勝利を与える。

④ 感染症にかかった選手が出たチームは、他の健康な選手は保菌者でないという医師の責任ある証明書がないと出場することができない。

⑤ 延長試合の場合は選手の健康管理上15回で打ち切り再試合を行う。春季・秋季地区大会な

らびに同郡道府県大会では再試合とせず、抽選によって上位進出チームを決定することとするが、その適用は主催連盟で採用の可否を決める。本県では、抽選方法は採用せず、再試合を行うこととするが、新人大会において抽選方法を採用する場合は、各地区抽選会で事前に決定を行う。

抽選は、引き分け決定後、通常通りホームプレートを挟んで両チームが向かい合い、最後に出場していた9人が一歩前に出て18人全員が主審の用意した封筒を引き、開封しないでベンチ側の審判員にそれぞれ手渡す。封筒は18通用意し、その内の1通に丸印を入れておく。全員の提出が終わったところで審判員が開封し、上位進出チームをコールする。

## ⑥ 愛媛県県立学校運動部員健康管理要領

### 抜粋

第2条 運動部員の活動については、健康診断の結果、異常のない者を参加させることとし、日常の健康管理は次のとおりとする。

- (1) 原則として毎週1回体重測定を行うとともに毎月1回健康相談を実施し、常に健康状態を把握すること。
- (2) 必要に応じて、血圧、尿、心電図、赤血球沈降速度その他の検査を行い、疾病の早期発見に努めること。
- (3) ツベルクリン反応検査の結果、強陽性と認められた者又は自然陽転と認められた者については、医師の指導に従い適切な処置をとること。
- (4) 疾病等により練習を休んでいた運動部員を練習に参加させるときは、医師の診断を受けさせる等の方法により治癒を確認すること。

第3条 運動部員を対外運動競技に参加させるときは、十分健康状態を把握し、異常のあると認められた者については、医師の指示により適切な措置をとるものとする。

第4条 運動部員を対外運動競技に参加させたときは、競技終了後速やかに健康相談を実施し、異常のある者については、適切な措置をとるものとする。

第5条 運動部員が使用する練習場、施設、用具等を常に点検整備するとともに、服装、練習方法等にも留意し、事故の防止に努めなければならない。

## 7 大会使用球

大会使用球は当連盟公認球を使用する。

## 8 応援

応援は日本学生野球憲章及び愛媛県高等学校野球連盟大会応援団規定によって行う。詳細は本連盟で定める。

## 9 その他の事項

その他の事項は日本学生野球憲章・野球規則・愛媛県高等学校野球連盟規約の定めるところによる。

## 2 応援団規定

- 1 応援団及び団員（以下応援団という）は、母校の名誉と高校野球の品位を重んじ、秩序と統制のとれた応援に終始し、高校野球の正しい発展に協力する。
- 2 引率責任教師により統率された当該校生徒を主体として組織される応援団の行動については、すべて所属する学校及び野球部がその責任を負う。
- 3 当該校生徒以外の者を主体として組織される応援団が学生野球の健全な発展を阻害し、または阻害するおそれがあると認められる行動をした場合についても、所属する学校及び野球部がその責任を負う。
- 4 応援団は常にスポーツマンシップにのっとり、学生らしい応援を行い、自他の別を問わず美技には賞賛を、失策・敗戦には同情激励し、広く一般観衆の模範となるように努める。
- 5 応援旗は学校を象徴する応援旗一流を固定し、小旗・横断幕・メガホンその他ゲーム進行に支障をきたすものは一切使用しない。

- 6 バトントワラーの応援参加は差し支えないが、棒バトン・リングバトン以外の用具の使用はできない。また、リーダーなどの仮装や民謡などの踊りはしない。ポンポン（光るタイプは不可）の使用は差し支えないが、高校野球の主旨にのっとり行う。
- 7 応援には統制のあるブラスバンドの演奏のほかは、笛・太鼓などの鳴りものは使用しない。また、ブラスバンドもゲーム進行中は演奏しない。投手が投球動作に入ったら応援をやめる。  
攻守交替時のブラスバンド演奏は、攻撃にうつるチームのみ可
- 8 応援引率の責任教師は会場到着と同時に応援団の編成その他を大会本部に連絡し、大会本部より諸注意を受け、その後応援団を入場させること。
- 9 応援団は応援終了後応援席の清掃をするように努めること。（ゴミを持ち帰ること。）
- 10 応援団は試合前後お互いにエールを交換しよう。
- 11 応援団は審判委員や選手に対して下品な野次をとばしたり、ゲームの進行を妨げるような行為は一切しない。
- 12 学生野球憲章の主旨にのっとり秩序ある行為に終始する。

#### ○応援団の規律と罰則（日本学生野球憲章抜粋）

- (1) 生徒で組織される応援団及びその団員は、常にその本分に基づいて行動しなければならない。この応援団及びその団員の行動については、すべてこの応援団の所属する学校及び野球部がその責任を負うものとする。
- (2) 応援団またはその団員がその本分に反する行動をしたときに、これに関係がある野球部または責任教師・監督・選手及び部員については警告・謹慎・出場停止または除名の処置を受けることがある。
- (3) 前項の規定は生徒以外のもので組織される応援団またはその団員が学生野球の健全な発達を阻害し、または阻害するおそれがあると認められる行動をした場合についても前項と同じ罰則が通用される。

### 3 アマチュア野球内規

（規則適用上の解釈）

2009年2月修正

#### 1 審判員がインプレイのとき使用球を受け取る

スリーアウトと勘ちがいした守備側が、使用球を審判員に手渡したのを審判員が受け取った場合は、規則 3・15 を準用する。審判員が使用球を受け取ると同時にボールデッドとし、受け取らなかつたらどのような状態になったかを判断して、ボールデッド後の処置をとる。また、ベースコーチが同様のケースで試合球を受け取った場合も、受け取ると同時にボールデッドとするが、走者はボールデッドになったときに占有していた塁にとどめる。 （規則 3・15）

#### 2 アウトの時期

アウトの成立する時機は、審判員が宣告したときではなくて、アウトの事実が生じたときである。第三アウトがフォースアウト以外のアウトで、そのアウトにいたるプレイ中に走者が本塁に達するときなどのように、状況によっては速やかにアウトを宣告しなければならない。 （規則 4・09 (a) 【注 1】）

#### 3 最終回裏の決勝点

正式試合の最終回の裏かまたは延長回の裏に、規則 7・07 規定のプレイで三塁走者に本塁が与えられて決勝点になる場合には、打者は一塁に進む義務はない。 （規則 4・09 (b), 7・07）

#### 4 二死、四球暴投、決勝点で打者一塁へ進まず

最終回裏、走者三塁、打者の四球（フォアボール）目が暴投または捕逸となって決勝点が記録される時、四球の打者が一塁へ進まなかつた場合は、規則 4・09 (b) のように球審が自ら打者のアウトを宣告して、得点を無効にすることはできない。打者が一塁に進まないまま、守備側が何等の行為もしないで、両チームが本塁に整列すれば、四球の打者は一塁へ進んだものと記録される。

打者をアウトにするためには、両チームが本塁に整列する前に守備側がアピールすることが必要である。

（規則 7・10 (a) 【注 2】）

しかし、守備側がアピールしても、打者は一塁への安全進塁権を与えられているので、打者が気付いて一塁に到達すれば、アピールは認められない。守備側のアピールを認めて打者をアウトにする場合は、

イ 打者が一塁に進もうとしないとき

ロ 打者が一塁に進もうとしたが途中から引き返したときである。

(規則 4・09 (b), 7・10 (d) 【注 2】)

#### 5 正式試合となる回数

審判員が試合の途中で打ち切りを命じたときに正式試合となる回数については、規則 4・10 (C) に規定されているが、各種大会などでは、この規定の適用に関して独自の特別規則を設けることができる。

大会によっては、一定以上の得点差、たとえば、5回 10 点差、7回以降 7 点差など、得点差によってコールドゲームとし、正式試合とする特別規則もある。

(規則 4・10 (C))

#### 6 次回の第一打者

たとえば二死、打者のボールカウント 2 - 1 後の投球のときに、三塁走者が本盗を企てたが得点とならないで攻守交代になったような場合、次回の第一打者を明らかにするため、球審は、打者が三振でアウトになったのか、走者が触球されてアウトになったのかを明示しなければならない。

(規則 6・01 (b), 6・05 (n))

#### 7 オブストラクションの厳格適用

捕手または野手が、あらかじめ塁線上およびその延長線上の塁上に位置して(足または脚を置いて)送球を待つことを禁ずる。違反した場合は、オブストラクションとなる。

(規則 7 事 06 (a))

#### 8 打者の背後にウエストボールを投げる

投手がスクイズプレイを防ぐ目的で、意識的に打者の背後へ投球したり、捕手が意識的に打者の背後に飛び出したところへ投球したりするような非スポーツマン的な行為に対しても規則 7・07 を適用し、走者には本塁を与え、打者は打撃妨害で一塁へ進ませる。

(規則 7・07)

#### 9 アピールの場所と時期

守備側チームは、アピールの原因となった塁(空過またはリタッチの失敗)に触球するだけでなく、アピールの原因でない塁に進んでいる走者の身体に触球して、走者の違反を指摘して、審判員の承認を求める(アピール)ことができる。この場合、アピールを受けた審判員は、そのアピールの原因となった塁の審判員に裁定を一任しなければならない。

アピールは、ボールインプレイのときに行われなければならないので、ボールデッドのときにアピールがあった場合は、当該審判員は「タイム中だ」ということとする。

(規則 7・10)

#### 10 ワインドアップポジションの投手

ワインドアップポジションをとった右投手が三塁(左投手が一塁)に踏み出して送球することは、投球に関連した足の動きをして送球したとみなされるから、ボークとなる。投手が投球に関連する動作をして両手を合わせた後、再び両手をふりかぶることは、投球を中断または変更したものとみなされる。投球に関連する動作を起こしたときは、投球を完了しなければならない。

(規則 8・01 (a))

#### 11 投球する手を口または唇につける

規則 8・02 (a) (1) のペナルティに代えて、審判員はその都度警告してボールを交換させる。

(規則 8・02 (a))

#### 12 投手の遅延行為

走者がいるとき、投手が投手板から軸足はずして、走者のいない塁に送球した場合、または、投手板上からでも軸足を投手板からはずしても、塁に入ろうとしていない野手に送球した場合には、投手の遅延行為とみなす。

(規則 8・02 (C), 8・05 (d), 8・05 (h))

### 4 高校野球特別規則

高牧野球特別規則は、日本高等学校野球連盟ならびに各都道府県高等学校野球連盟が主催する各種高等学校野球大会および国民体育大会高等学校野球競技に適用されるものである。

たくさんの重要事項があるため、大会に関する規定ではあるが、別途掲載する。

## 5 大会の徹底事項

高校野球の主旨を理解し、規則を守り、スピーディーな試合を展開するため、代表者会議などで次のこととがらを周知徹底する。

- 1 ユニフォームは正しく着用する。
- 2 負傷箇所防護のためのテーピング・サポーターを認める。当該選手が担当審判員に申し出て許可を得ること。使用するテープは目立たない肌色に近いものとする。
- 3 着色パットは使用できない。  
但し原色（原木）に近いと判断できるものはよい。
- 4 金属製バットの使用は、製品の安全基準合格を示す<SG マーク>のあるものに限る。
- 5 攻守交代は全力疾走で行う。
- 6 攻守交代時、先頭打者および次打者とベースコーチはミーティングに参加せず、速やかに所定の位置に着く。
- 7 次打者は次打者席で、低い姿勢で待機し、前の打者が打撃を完了すれば、速やかに打者席に入る。
- 8 打者はみだりに打者席から出てはならない。  
(球審は、打者がベンチからのサインを見るために打者席をはずすことのないよう指導する。)
- 9 サインについては、余計な時間をとる複雑なものはなくし、速やかに出すよう監督に協力を求める。  
バッテリー間のブロックサインは禁止する。また内野手から投手へのサインもできるだけ簡単にする。
- 10 グラウンドの選手へ指示するためにやむをえず、”タイム”を要求した場合でも、選手をベンチに呼び寄せないで、伝令を使うこと。伝令はスピーディーに往復する。
- 11 投手が球審からボールを受けたり、打者が打者席に入るとき“礼”は、試合開始のときにあいさつをすませているので不要である旨を徹底する。
- 12 打者が捕手の捕球に合わせて「ボール」と発声する行為や、ベースコーチが野手の捕球に合わせて「セーフ」と発声する行為をさせない。
- 13 相手を中傷するような野次はやめる。
- 14 アンフェアなプレイおよびラフプレイは絶対にしない。  
例えば、
  - (1) 足を高く上げ、野手に向かって行くスライディング
  - (2) 打者走者が一塁への送球を妨害するために、ファウルラインの内側をふくらんで走る行為
  - (3) 野手がベースを隠し、わざと走路上に立って走塁を妨害する行為
  - (4) 走塁妨害となるようないわゆる捕手のブロックなど
- 15 臨時代走については、高校野球特別規則の主旨を理解徹底させる。〔高校野球特別規則 8 参照〕
- 16 グラウンドでつばを吐くような行為をしない。
- 17 試合終了後、応援団へのあいさつはできるだけ短く済ませ、速やかに用具などをまとめ、ゴミを残さず、ベンチ内を点検してから退出する。
- 18 危険防止のため、次のことを徹底する。
  - (1) 鉄棒、バットリングはベンチに持ち込んではいけない。
  - (2) 打者及び走者は、必ず「両耳付きヘルメット」を着用しなければならない。
  - (3) 捕手のヘルメット、頭部が十分保護されているものを着用する。
  - (4) 捕手は座って投球を受けるときは、必ずマスク、ヘルメットなど、捕手の防具を着用しなければならない。
  - (5) グラウンド内にいるボールボーイも、必ずヘルメットを着用する。
  - (6) 試合前のフィールドイング時のノック補助員（背番号付き選手を含む）も、必ずヘルメットを着用すること。
  - (7) ランナーコーチは、ヘルメットを着用しなければならない。